

プログラム No 2-7

プログラム名 2-7 NP・NDC 研修センター 特定ケア看護師の挑戦 コロナ禍の活動報告

タイトル：診療所における特定看護師活用の一例

講演者・発表者：中村 泰之 尚永 直哉

所属：米原市地域包括医療福祉センター

講演要旨

在宅医療の推進が進む中、医師の確保に難渋する地域の診療所は多い。そのような診療所では、実践的な判断力や専門的な知識及び技能をもつ特定看護師のニーズは高い。しかし、診療所では、人材や費用の確保の問題などから特定看護師を育成するにはハードルが高く、実際に診療所で活動する特定看護師は全国的に見ても少数である。

当診療所では特定ケア看護師（以後 NDC）を育成し活用している。施設長の立場からは、NDC 育成の背景から実際に行っている特定行為の活用例、NDC からは活動報告として特定行為とそれ以外の活動について、特定看護師の活用の一例として紹介する。

特定看護師に求められる活動は、それぞれの地域や施設によって異なり、活用方法も多岐にわたる。そのため今回の報告が直接参考となるかはわからないが、今後地域で活躍する特定看護師が増える一助となる事を期待したい。

タイトル：老健 NDC からの活動報告

講演者・発表者：畑野 秀樹 桐山 真理子

所属：地域包括ケアセンターいぶき

講演要旨

老健に勤務する特定行為修了者の数は少なく、全国の修了者全体の中でもわずか数%に留まります。老健からの受講生が少ない背景には、「特定看護師が活躍できる場面が少ない」「研修を受講する時間をとることができない」などの理由があります(令和3年度 介護保険施設における医療専門職の関与のあり方の検討に関する調査研究事業報告書より)。それらに対し、実際に老健に勤務する特定ケア看護師(NDC)として、医師からのタスクシフト・タスクシェアの例、NDC の活用例を報告します。

タスクシフト・シェアについては、特定行為の実施よりも臨床推論に添った医師へのプレゼンが有用であり、NDC の活用については老健だけに留まらず活動することが重要です。またコロナ禍において、老健に NDC を配置しておくメリットもいくつか見えてきました。

私の活動は「研修受講に費やす時間以上の活躍を老健にもたらせるか？」への挑戦です。今回の活動報告で老健 NDC への理解が深まり、老健 NDC とその仲間が増える事を願っています。

タイトル：上野原市立病院の特定ケア看護師の挑戦

講演者・発表者：和田優子 志村はるか

所属：上野原市立病院

講演要旨

【背景】

NDC 3 期生として研修を修了し、1 年間の臨床研修後、2020 年から特定ケア看護師の活動を始めた。手探りで始まった活動は、多くの人の理解と協力によって成り立っている。特定ケア看護師の活動を始めるのとはほぼ同時期から新型コロナウイルス感染症が流行した。発熱外来の設置や地域のワクチン事業への協力など、医師の業務量はさらに増し医師不足は顕著となった。

【活動内容】

主な活動内容は入院患者管理であるが、特定行為の実施だけではなく、看護師の気づきを共有することで、患者ケアや医療の介入に繋がった。コロナ禍となり、COVID-19 検査対応や高度医療機関への転院搬送同乗など活動内容は広がった。また、歯科口腔内のケアの充実を目指し訪問歯科診療のしくみを考案し、医科歯科連携を開始した。看護師教育活動や、山梨県看護協会にて県内の看護職に向けて特定ケア看護師の普及活動を実施している。

【結論】

病院や地域の特性をふまえ、院内だけでなく地域へ向けての活動も特定ケア看護師の役割のひとつであると考えられる。在宅療養患者はますます増えることが予測され、今後も特定ケア看護師の挑戦はまだまだ続いていくと考える。

タイトル：特定ケア看護師の調整～NDCのコロナ禍の活動報告～

サブタイトル：総合診療センター、麻酔科での活動を通して

講演者・発表者：鶴井 亮扶 砂川 浩（麻酔科医師）

所属：横須賀市立うわまち病院

講演要旨

【背景】

発表者は手術室看護師を12年経験後、JADECOM NP-NDC研修センターにて特定行為研修21区分38行為を修了した。研修修了後、内科、ICU、整形外科、麻酔科でOn the Job Trainingを実施。2021年より総合診療センターに所属し、ICU、内科、麻酔科で活動を行っている。現在は内科、麻酔科にて活動を行っている特定ケア看護師のコロナ禍での活動の報告をする。

【活動内容】

手術室ではカンファレンスで麻酔管理計画を共有し、麻酔準備、導入、維持、覚醒までの一通り行為を麻酔科医師を補助する形で行っている。必要時、外科医師の前立ちや手術室看護師として直接介助や間接介助を行ない、手術室の円滑な運営に貢献している。

内科では、朝のカンファレンスで自身の担当患者のプレゼンテーションを行い、カンファレンスの内容に沿って処方や検査オーダー、指示の入力を行う。一部外来診療も担当する。またRRSのファーストコールを受け入れ、バックアップ医師と共に院内急変対応している。この様に横断的活動を行っている際にコロナ第5波が到来し、コロナ病棟が医師、看護師共に人手が不足した状況であったため、特定ケア看護師に応援要請があった。当院は5名の特定ケア看護師在籍しているため、持ち回りでコロナ病棟にて勤務を行なった。勤務中は重症患者も受け持ち、医師と協働して重症患者の人工呼吸器離脱や新規入院患者に必要な特定行為の実施を行なった。

【結語】

手術室看護師出身で内科の基礎を学んだ特定ケア看護師がいることで緊急時の人員不足に対して麻酔業務を含めた診療側でも看護側でも貢献する事ができる。